

保科晶の雑記帳

2004



保科晶の雑記帳

こんにちは！

日記は毎日だけど、これは気の向いたとき
そのとき、面白いと思った本、音楽あれこれ
身の回りのこと、景色のこと
なんてこと無い人間の
なんてことない、おもったことを
ぼちぼち、書いていこうかな
そう、パソコンの練習、人生の復習
なんのこっちゃ！



[保科晶の雑記帳](#) [2004-08-31 15:53 by guminomi2]

なかよしこよし

長い坂道の片側ずっと木が植わっている。

その中にはひとつの木に違う種の木が完全に合体しているのがある。

まるで肩を組んでいるような。

くねくねとからだをくねらせているのもある。エロティックだな、と思う。

ああ、生きてるな、と思う。

ボキボキと欠けているのもある。

もうひとつの側はつい最近まで、高い石垣と桜や蔓がふっさりと濃い影をつくっていたが、あっというまにブルがなぎ倒し、坂道の木々は白日のもとに裸身をさらしてしまったのだ。

折れ曲がった腕が乾いている。

パラソルをかけたくなる。



[なかよしこよし](#) [2004-08-31 22:26 by guminomi2]

性格

この厄介なもの。

そしてこれがわたしの道具。



[性格](#) [2004-09-03 22:34 by guminomi2]

2004/04/14 ある日、あるとき

女がベッドに座っている。

男はその傍らで、椅子に腰をかけている。

二人はケーキを食べている。

少し背をまるめている。

ドアを開けた女は“こんにちは！”と、声をかける。

“今日はこの誕生日なんでね、食べる？ケーキ”

“いい、いい、今食べてきたばかりだから、どう？調子は”

窓の外にはマグリットの雲。



[2004/04/14 ある日、あるとき](#) [2004-09-08 15:24 by guminomi2]

2004 BOLOGNA

原画展に行ってきました。

汗がまとわりつく日でした。7年ぶりです。

絵本って子供だけのものじゃないけれど、基本は子供のものって気がします。

ひとつひとつは個性があって、いいんだけど、なんていうのかなあ、

胸にふわっと響いてくるものがなかった。それに、こう、いい作品をザザ〜ッと、

並べられるとなんにもほしくないわ！と思ってしまった。

なんこかは気にいったのが、あったけれど、ポストカードにはなってなくて、

記念に5枚買ったけれど、今年のはまあいいか！と妥協して2枚、後の3枚は前のもの。

帰ってから、7年前のと比べてみると、あきらかに前のがいい。

今年は、なにかけっこう怖い顔しているなあ、これ、子供が見て喜ぶの？

あ、いいなあ！と胸があったかくなるようなのがほしい。

わくわくするようなのがほしい。

国の数がやっぱり、かたよってるね。

ってなところで、ギタギタに疲れて帰ってきた。

それにしても、私の行った美術館の庭のセンスの無いこと！

彼岸花が2, 3本、咲いていたのがよかったね。



切り抜き

ムダの塊のようなもの。時間が経つとポイっとごみ箱行きになる。でもやる！

私のやり方、

毎日の新聞から気になる記事のある面を大きく切って

椅子のところにおいておく。

ピカッと目に入ったものはすぐ切って電話機のそばなんぞにおいておく。

日々の雑事をこなしているうちに、たまっていく。たまる。たまる。もうアカン。

と、なったところでほとんど丸一日を費やして整理する。

最初は楽しい。ながく生きていればいるほど知らないことが増えてくる。

昔わからないといっていたことが、解ってきたりする。

(情報開示というやつか) やっぱりね！

記者が書いたちっちゃなコラム。

絶対行けない地球上のすばらしい(と、思える)場所。

想像は紙の上を走る。好きなものの上に書評欄がある。

一冊の本のなかには宇宙。

あれも！これも！と思えど根気もないので、書評欄で90%読んだ？気になる。

しかし書評欄で買うとたいがい失敗というはめになる。

(本は本屋で本の中から放射してくるのを買わなくちゃ)

新聞には世界がある、と、アホなことを思いつ。

最後にはめっちゃ疲れてくる。絶対おいておくもの、まあまあのもの、

分類して紙袋に入れる。

(昔はスクラップブックにはっていたが、いまはめんどくさい)

この袋がいっぱいたまってくる。ある日、なんじゃらほい！と思って

さっぱり、捨ててしまう。

ああ、賽の河原！、私と同じ、なんにも残ってまへん。

この繰り返し。でもやる！切り抜きは楽し、といえる。

新聞記者さん、ホンマの記事書いてね。



[切り抜き](#) [2004-09-17 15:52 by guminomi2]

彼岸花

お彼岸の頃にはヒガンバナ。
刈り取りの終わったあぜ道、まだ頭のたれた稲穂のあぜ。
陽のとどかない土手の鮮明な赤。

冬になると土手は格好の滑り台となる。
するするすべってかわいた田んぼの中。
すべりながら登って、またすべる。



[彼岸花](#) [2004-09-28 21:35 by guminomi2]

掃除、選択、片付けいわゆる家事全般のお供にバッハをよく聴く。

手は俗事を、頭は宇宙の高みに、弾き手はやっぱりグールド！

平均律クラヴィーア、これを夜あらいものをしながら聴くとつまらないことがつまらなくなくなる。私のなんといっても好きな曲、そして何が何でもグールドでなくちゃいけない。

イギリス組曲、フランス組曲、なども家事にはとてもいい。

そしてちょっと気分転換しよか！と思ったときは、サリフ・ケイタを聴く。

ヤモレが一番いい。最初これを聴いたとき、あ、グリオだ！と思ったら、マリの人であった。

洗練されたアフリカの感じがして、なつかしくて（人類発祥の地なので）ノリがいい。



子供がそとで遊んでいる声、ククルククと鳴く鳩。

（私には鳩は中南米風の鳴き方に聞こえる）

修道院の鐘の音、学校のブラバン、飛行機、
たくさんの世俗の音。

[BGM](#) [2004-10-11 22:42 by guminomi2]

まいまいこんこ

「まいまいこんこしたらアカンよ」
大昔、祖母に言われた。
まいまいこんこしそうになると
アランの「幸福論」を開く。
当分のあいだ区切りがつく。



[まいまいこんこ](#) [2004-10-17 16:00 by guminomi2]

うずくまる鳥



[うずくまる鳥](#) [2004-10-30 16:31 by guminomi2]

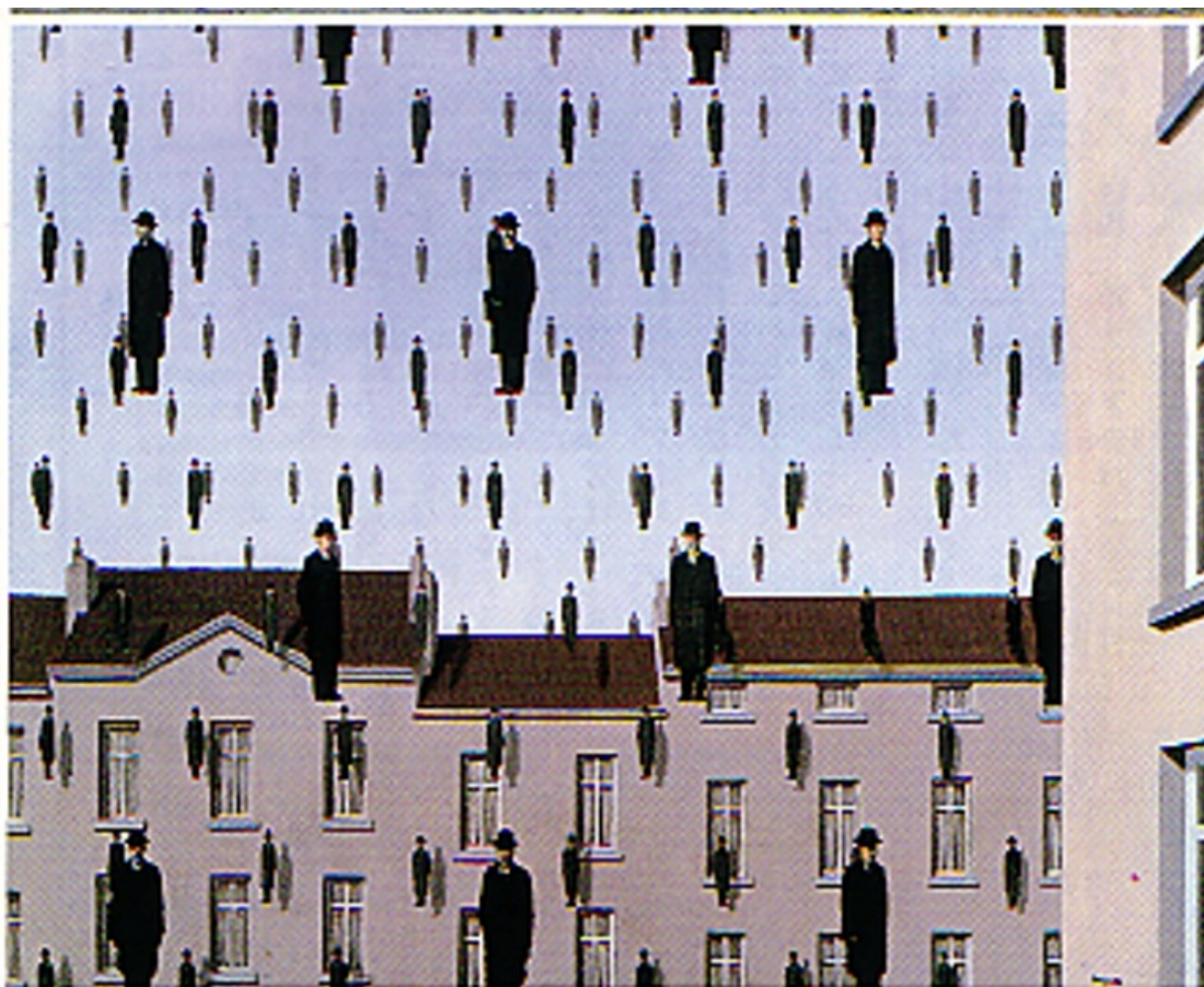
台風がきた。

そして何十年かがいってしまった。



[台風がきた。](#) [2004-10-30 16:39 by guminomi2]

カタカタカタ・・・
ダダダダダーツ
シュルシュルル
はるか彼方から時空をこえて
人形たちがやってくる
キリコの景色から
マグリットの服を着て
あるときはボレロで
あるときはアフリカンビート
そしてブルースにのって



新札

あまりお札のデザインをじっくり眺めたことはなかったのだが、今日なんとなくその気になって見てみると、これが違うものだ！

まず、諭吉さん、陰影のつけ方でこうも印象が変わるものだろうか！

今までののは、おだやかで、人間の真理を普遍的に眺めているように見える。

新札は、現実的で、険があってすこし意地悪そうに見える。

左の下で光っているのもなんじゃいな！と思う。



さて裏にいたっては、

今までのほうがはるかにデザイン的に優れていると思う。

左の歩き出そうとしているすっきりとした鳥、

右のぷっくりと座っている柔らかな鳥。

中のまん丸を囲んでバランスがとれている。

それに引き換え、新札は、何もかもに、やはり険がある。

このガラのような鳥といい、すこしせばまった丸といい、余裕が感じられない。

バランスはまるっきりとれてなくて、

世相を反映しているのかいな、と、思ったり。

ま、一万円札はこちらの手元にはほんのちょっとしかいてくれないから、

こんなものかいな、と思ったり。

一葉さんと英世さんは手元にはないからやってきたら、また見てみようと思っている。

[新札](#) [2004-11-08 12:19 by guminomi2]

光と影

デジカメをもってから光と影を意識するようになった。とくに冬が近くなって朝、濃い光が部屋の中に入ってくるようになって・・・



ひかりのなかで朝の紅茶を飲む



[光と影](#) [2004-11-11 23:36 by guminomi2]

この詩の作者をご存知ですか？

空は屋根の上、あんなに青く、あんなに静か
木は屋根の上、梢をゆすっている。

空に見える鐘はやさしく鳴り
木にとまった鳥は嘆きを歌う。

神様、人生はあすこにあります
シンプルでおだやか。
あの平和な物音は街から来るのです。

だが、そこにいるおまえ、絶えず泣くお前
一体何をしたというのか、その若さで？



もう忘れるほど前、新聞の片隅に載っていたものですが、心に響き、切り取って
本箱に張っています。今も好きです。
どなたか作者をご存知でしたら教えてください。

[この詩の作者をご存知ですか？](#) [2004-12-04 22:47 by guminomi2]

豆乳鍋をつくってみたら

[ブログでいかにもうまそうな豆乳鍋](#)の記事を見て、これはつくるべし！

(めったにこういうことは思わないのであるが)

湯葉がエンドレスに出来る、とあったので、いっぱい食ってやる！とワクワクしながらわさび醤油を片手に、「煮立たせちゃ、だめだな」と思い、弱火にして待っていたら、

しょぼいのがしょぼしょぼ7,8回出来たら、終わり。

後は仕方がないのでだしを入れ少し味付けをして、普通の鍋と同じにポン酢と相成りました。なんのこっちゃ！

べつに普通においしかったが、「豆乳の種類か？鍋か？火加減か？」

湯せんにしないとあかんのやろか？湯葉は買うと結構高いので、

ああ!腹いっぱい食べ損ねた、と思った次第。

しかし、後が問題！

がちりと鍋にしがみついたモロモロ豆腐のような落ちにくいこと！

一晩水につけておいてなんとかあったが、

やれ、料理も奥深し！なにかコツがあるんだろうね。

